ブナコ漆器製造（弘前）の2商品

グッドデザイン賞受賞

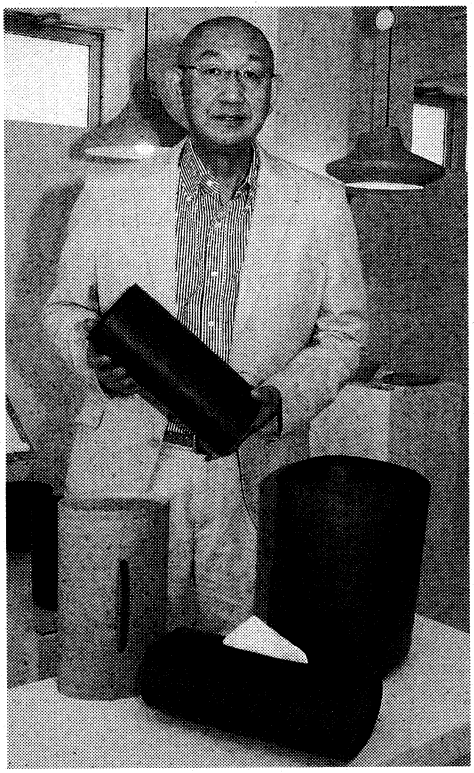
弘前市のブナコ漆器製造（倉田昌直社長）のティッシュボックス「swing（スウィング）」とダストボックス「Twist（ツイスト）」が2009年度のグッドデザイン賞を受賞した。同社商品の受賞は2年ぶり5回目。倉田社長は「デザイン性が優れていることの客観的な証しになる」と喜んでいる。

グッドデザイン賞は日本産業デザイン振興会が主催した。多分野のデザインを審査し、総合的に評価するもので、今年は2952件の応募から、1、2次審査を経て1034件が受賞。1日、発表した。

スウィングは今春、発売され、ブナコならではの曲線の美しさを生かした人気商品。箱形のティッシュをそのまま入れることができるなど、機能性も兼ね備えた。使用時にティッシュを引き出すと、揺れることから、名付けられたという。

一方のツイストは、三角柱を上部から底部にかけてひねったユニークなデザインだ。数年前から、同じタイプの楕円（だえん）の商品を売り出し、2008年に四角、三角のものを発売しシリーズ化。今回は一番人気の三角を同賞に応募した。

いずれも「ありきたりのものを作っても売れない。技術的に他にはまねできないものを作った」と倉田社長。今回の二つを含めると、同社のこれまでの受賞は8商品に上った。倉田社長は「デザイン性の高さだけでなく、機能性、耐久性もないと、もらえない賞。受賞が売り上げにつながるかよりも、商品の良さへの客観的な裏付け、証しを獲得できたことが一番」と話した。



グッドデザイン賞受賞のティッシュボックスを手に喜ぶ倉田社長